

令和5年度 食生活に関する調査結果（年間報告）

令和5年11月に市内の小中学校・義務教育学校で実施した「食生活に関する調査」の結果がまとまりましたので、報告させていただきます。

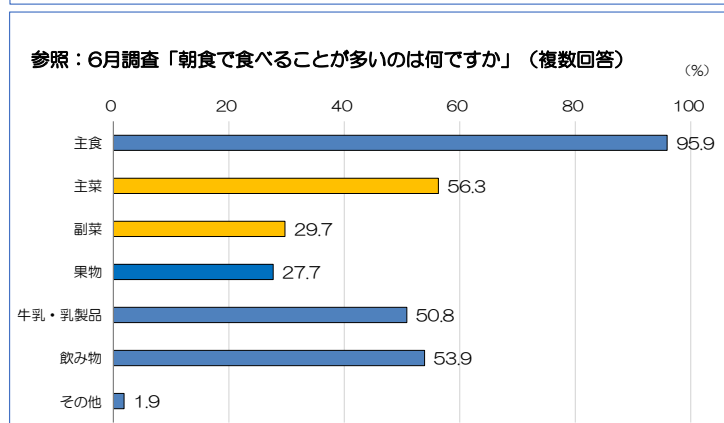
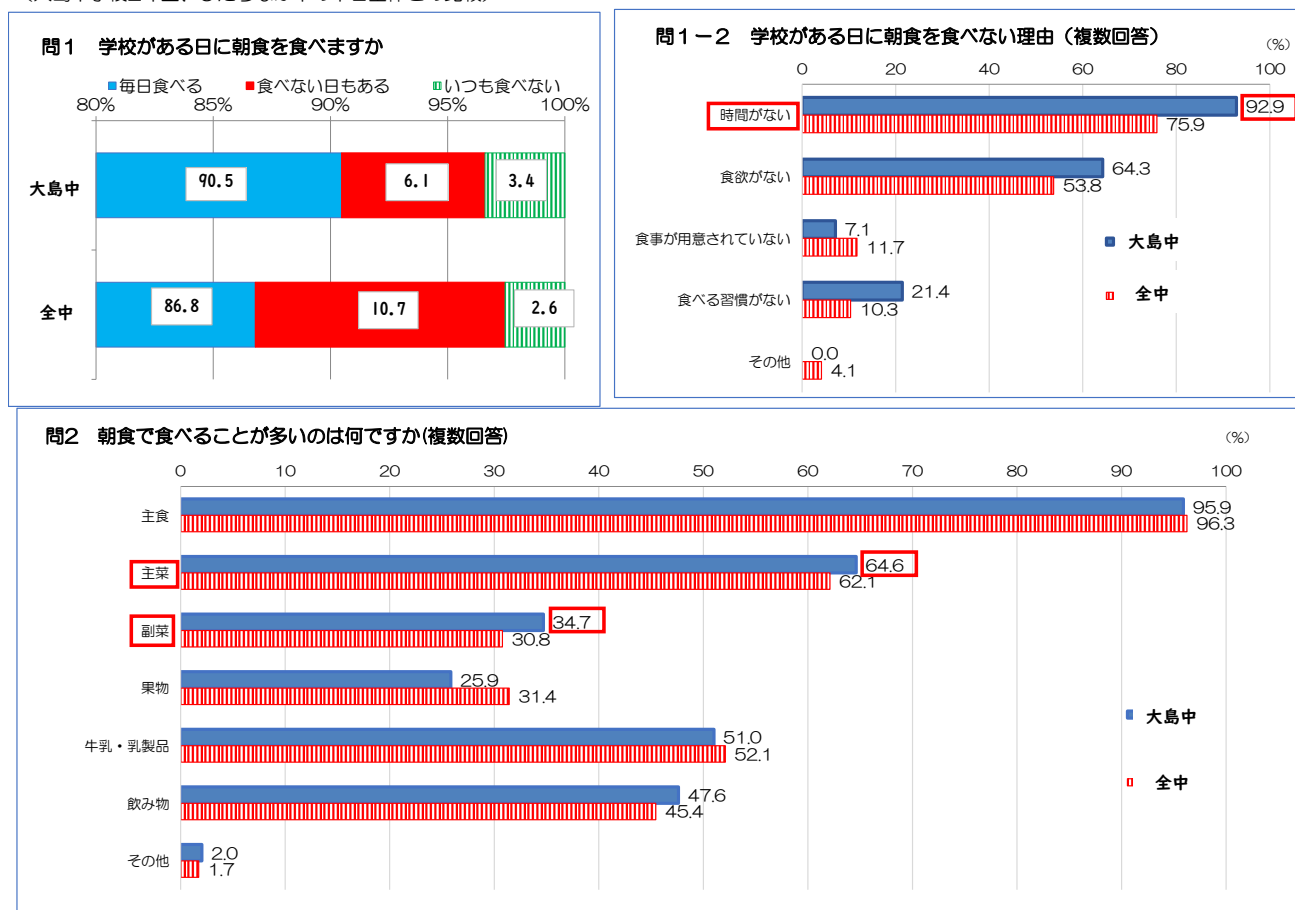
対象		小学5年生 (児童)	小学5年生 (保護者)	中学2年生 (生徒)	大島中学2年生 (生徒)	中学2年生 (保護者)	大島中学2年生 (保護者)
回答者数	6月	1,136名	860名	1,074名	144名	586名	101名
		85.6%	66.6%	82.3%	90.6%	45.5%	63.5%
回答者数	11月	1,051名 (↓85名)	814名 (↓46名)	1,098名 (↑24名)	147名 (↑3名)	631名 (↑45名)	115名 (↑14名)
		80.2% (↓5.4%)	63.8% (↓2.8%)	84.3% (↑2.0%)	92.5% (↑1.9%)	48.9% (↑3.4%)	72.3% (↑8.8%)

6月調査に比較して、中学校第2学年生徒・保護者の11月の回答率はそれぞれ増加しました。特に、大島中学校は生徒、保護者ともに市内中学校のと比べて、回収率が高くなっています。今後も回答率100%に近づくように、協力をさらに呼び掛けていきたいと思ひます。

1 朝食の摂取状況について

食生活に関する実態調査結果R5.11実施（ひたちなか市の中学校との比較）

（大島中学校2年生、ひたちなか市の中2全体との比較）



「学校がある日に朝食を食べない理由」に「時間がない」からと答えた生徒が大幅に増加する（全校平均6月調査59%⇒11月調査75.9%〔+16.9%〕、大島中6月調査48.6%⇒11月調査92.9%〔+44.3%〕）結果となりました。これは、学校生活に慣れてきたことや、寒さなど季節的な原因もあるのではないかと考えます。早寝をこころがけ、生活習慣を整えることが必要だと感じました。
朝食の内容では6月調査と比較し、11月調査では「主菜」「副菜」を食べることが多いと答えた生徒が増加しました

中学校第2学年（第8学年を含む）（保護者）

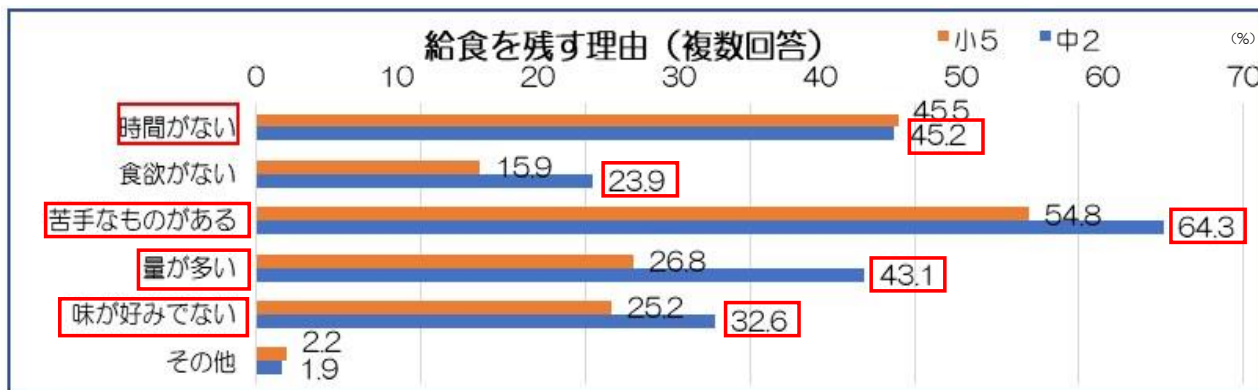
11月調査「学校がある日に朝食を食べますか」



保護者の結果は6月調査と変わらず、「毎日食べる」と答えた人が90%と生徒とほぼ同じ割合でした。

今後も保護者が家庭で朝食の必要性について、子供へ声かけできるように情報提供をしていきたいと思いをします。

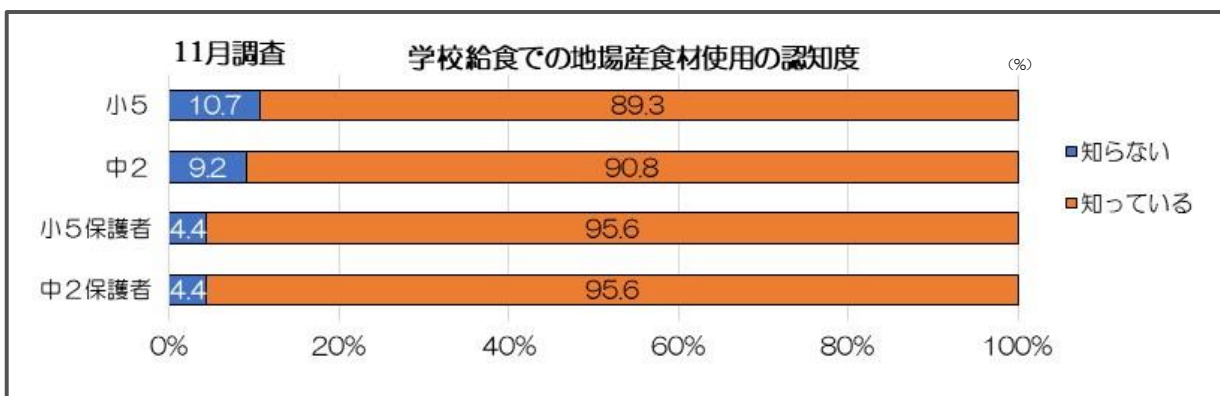
2 学校給食に対する児童生徒の残食意識について



給食を残す理由として、「苦手なものがある」「時間がない」が多くを占めていました。また、中学生は小学生と比較して「食欲がない」「苦手なものがある」「量が多い」「味が好みでない」と回答する割合が高い結果でした。これらは6月調査結果と大きな変化は見られませんでした。これは、中学生になると個々の食の志向が出てくることや、成長に伴うエネルギー等の必要摂取量の増加が理解できていないことが考えられます。今後はさらに、年齢別による1食分の適正量の周知等をして、成長期に必要なエネルギーや栄養素がとれるように支援をしていきます。



3 学校給食での地場産食材使用の認知について



学校給食に茨城県やひたちなか市産の食材が使われていることは、6月とほぼ同じ結果で約9割の児童生徒が認知していました。さらに、児童生徒より保護者の認知度が高い結果でした。

これは、日々の給食献立における「茨城をたべよう」献立や掲示資料、放送資料などでの地産地消のPRにより、高い認知度を維持していると考えられます。引き続き、取り組んでいきたいと思いをします。

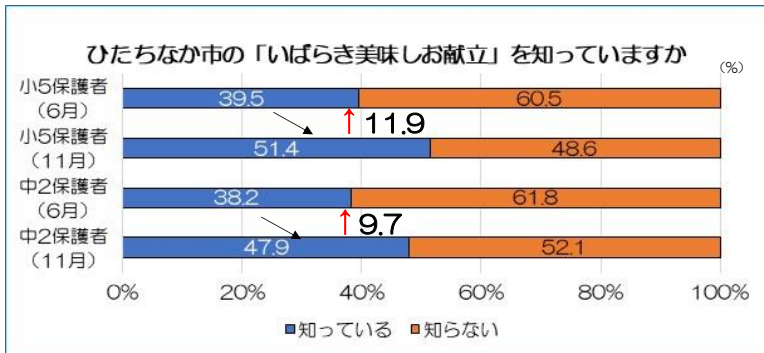
茨城をたべよう



茨城をたべよう

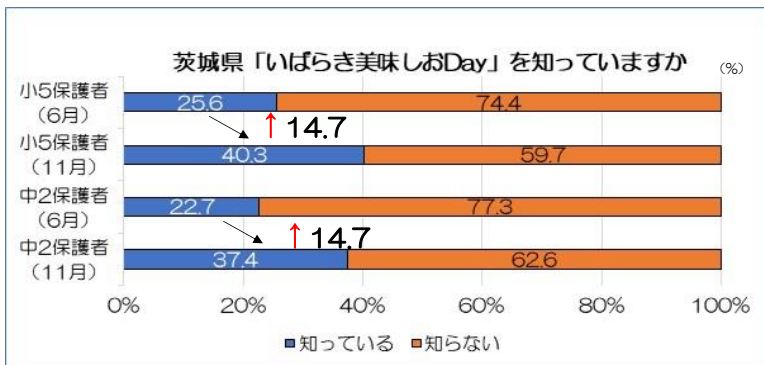


4 減塩の取組に対する認知について



令和5年11月調査において、茨城県「いばらき美味しおDay」、ひたちなか市「いばらき美味しお献立」を「知っている」と回答した保護者は、6月と比べていずれも1～2割程度増加しました。

これは家庭に配布する献立予定表等において、「いばらき美味しおDay」と「いばらき美味しお献立」をPRしたことで、認知度が高まったと考えます。今後は認知度を高めるだけでなく、家庭における減塩の取り組みを推進できるよう、引き続き、給食だより等を通して啓発を行います。

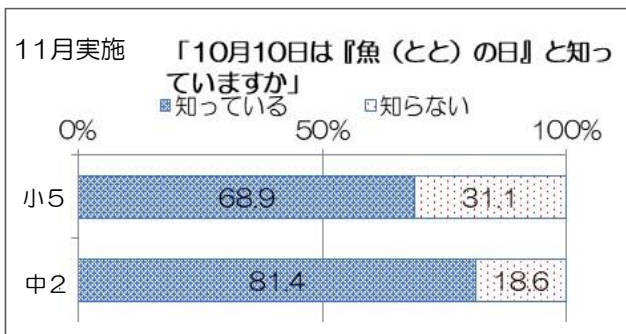


【参考】 「いばらき美味(おい)しお」について

茨城県では、減塩であっても料理は美味しくできるということを県民に知らせるとともに、日頃から減塩に取り組んでもらえるよう、**40(塩)を半分に減らした20日を減塩の日「いばらき美味しおDay」として定め**ました。ひたちなか市の学校給食でも、この取り組みを実施するため、令和4年2月から毎月の献立のひとつを「**いばらき美味しおDay献立**」として減塩を啓発することにしました。

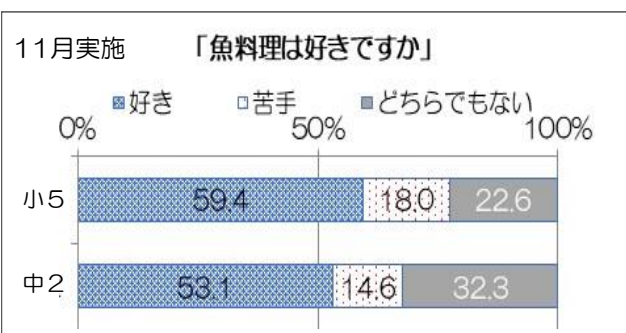


5 魚食の取組に対する認知について



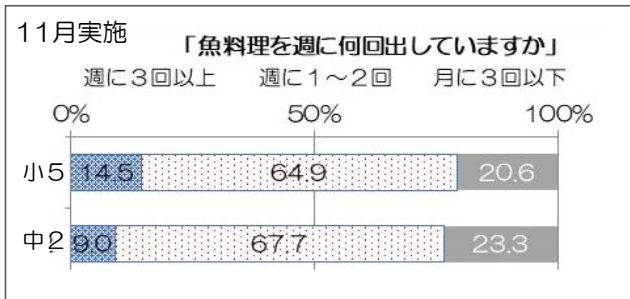
魚(とと)の日の認知度は、小中学生とも増加

(小学生6月調査56%⇒11月調査68.9%〔+12.9%〕、中学生6月調査76.9%⇒11月調査81.4%〔+4.5%〕)と増加していました。これは、継続した食育や掲示資料等の活用が生かされた結果と思われます。



「魚料理は好き」と答えた割合は、小中学生とも横ばい(小学生6月調査59.4%⇒61%〔+1.6%〕、中学生6月調査56.1%⇒53.7%〔-2.4%〕)でした。

また、「魚料理は苦手」と答えた人の理由で多かった「骨があるから」「臭いが嫌い」という理由は6月調査とほぼ同じ割合でした。今後、さらに給食での調理方法の工夫や、魚に対する理解を深めてもらいたいと思います。

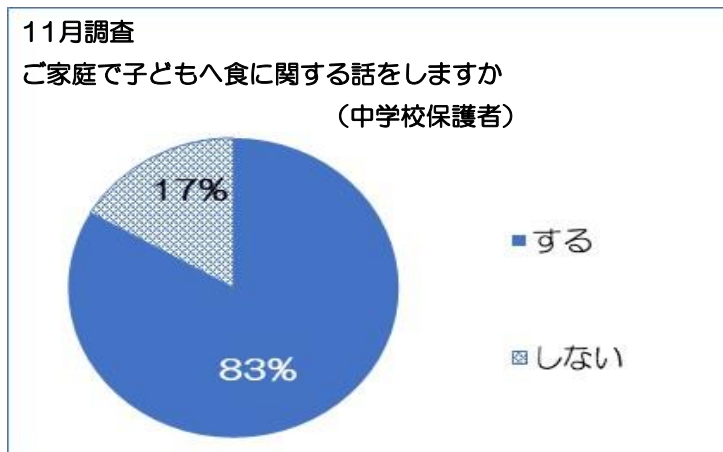


家庭で「魚料理を出す頻度」は、小中学校ともに「週1~2回の頻度」が約6割と多く、6月調査と11月調査の結果を比較して、ほぼ変化は見られず横ばいでした。

今後、魚料理をさらに食べてもらえるように、レシピ提供等をしていきたいと思えます。



6 家庭での食に関する会話について



ご家庭でお子さんへ食に関する話をしている割合は横ばい

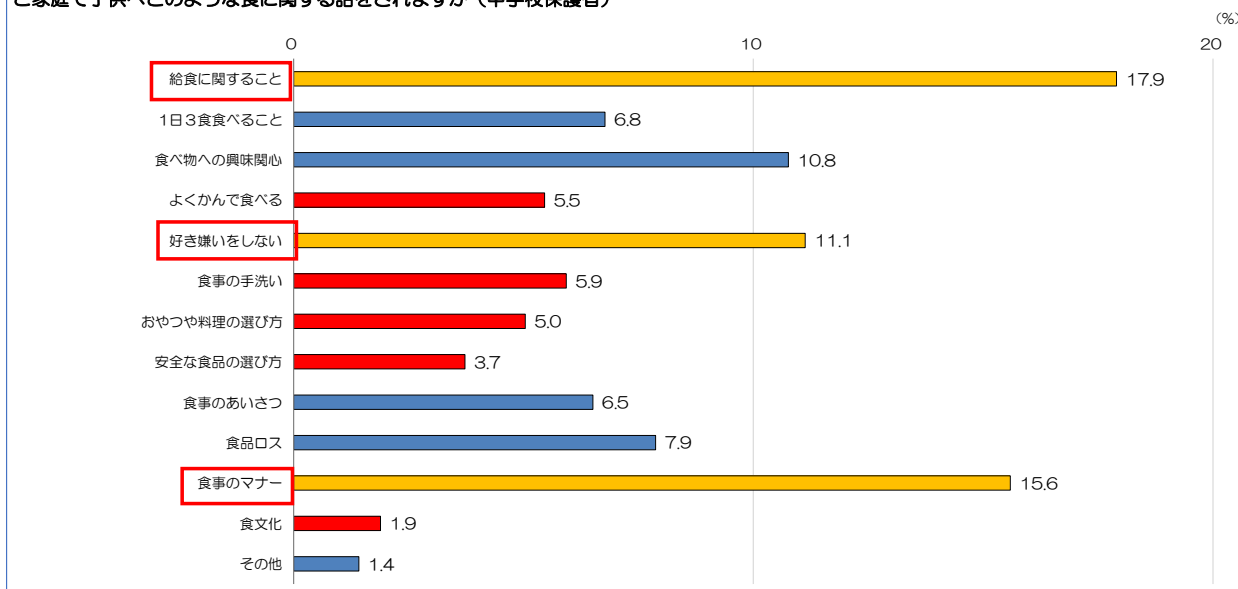
(6月調査：中学校80%)

⇒11月調査：中学校83%〔+3%〕)

でした。これからも、給食日よりや食育による家庭への啓発を行っていきたく思います。

11月調査

ご家庭で子供へどのような食に関する話をされますか (中学校保護者)



令和5年6月調査と比較して、11月調査の結果はほぼ変化は見られませんでした。

家庭でお子さんへ話している食に関する話の内容で割合が多かったのは、小学・中学ともに「給食に関すること」「好き嫌いをしない」「食事のマナー」でした。一方で、小学・中学ともに「おやつや料理の選び方」「安全な食品の選び方」「食文化」を話している割合が低かったです。さらに中学では「よくかんで食べる」「食事の手洗い」の割合も低い結果となりました。今後の食育にいかしていきたいと思えます。

